

今、できること。  
今、やるべきこと。



## 環境方針

私たち石坂グループは  
リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通じ、  
循環型社会構築へ貢献し、  
限りある資源とすばらしい地球環境を次世代に引き継ぐため、  
積極的に環境と調和の取れた企業活動を進めます。

- 1 廃棄物処理全般において、環境負荷の軽減を第一に考え、取扱い品のリサイクル率向上に最大限努めます。
- 2 事業活動における環境影響を随時把握し、特に以下の項目については、優先的に活動し、継続的改善・汚染の予防に努めます。
  - 1 水、電気等の資源エネルギーの有効活用に努め、使用量の抑制を図ります。
  - 2 リサイクル化、リユース化を推進し、廃棄物の発生を抑制します。
  - 3 有害物質の適正処理を推進し、対外放出の削減に努めます。
  - 4 排水の環境改善と適切な管理を図り、汚水の発生を抑制します。
- 3 環境関連法規及び当組合が同意するその他の要求事項を遵守し、社内環境整備に努め、業界の環境リーダーを目指します。
- 4 環境企業として社会的責任を果たす為、環境教育の場として施設の一般公開・見学・体験学習等を積極的に推進します。
- 5 この環境方針を全従業員に周知すると共に、一般の方に公開します。

2000年10月1日  
有価物回収協業組合 石坂グループ  
代表理事 石坂孝光

## 理事長あいさつ

### CSRと企業価値の創造

21世紀に入り、温暖化問題に代表される地球規模の問題から、地域社会における『生活系や産業系』の廃棄物処理問題まで問題の格差はあるもののその対応策としての基本理念は大差ないものと思われまます。

環境の時代が叫ばれ始めて十数年が経過する中、『廃棄物処理法』等の関係法令の改正や罰則の強化、各種のサイクル法が制定され、国策として廃棄物の抑制(Reduce)再使用(Reuse)再利用(Recycle)の「3R」の推進をテーマに循環型社会の構築を早期実現する「環境社会」へと変革してまいりました。

石坂グループにおいては、この時代の変革に乗り遅れることなく、常に新しい情報と技術を取り入れ、創業以来約30年間にわたり、地域社会と密着して廃棄物の再資源化と適正処理に取り組んでまいりました。

現在、石坂グループでは『CSR(企業の社会的責任)』を第一に考え、企業価値の創造とリスクマネジメントの構築に職員一丸となって積極的に取り組んでおり、ステークホルダー(地域住民、行政機関、排出事業者)の皆様「信頼と安心」を約束できる企業へと努力邁進しております。

昨年には産業廃棄物収集・運搬業及び処分業の両分野で「遵法性」、「情報公開性」、「環境保全への取組み」が認められ、県内企業では第一号となる「優良事業所」の認定を熊本市より取得し、また環境省が推進する「電子マニフェスト制度」にもいち早く取組み、情報化社会に対応するシステムの構築を図っております。

これからも石坂グループは、グローバルな視野で環境問題を捉え、地域社会の環境保全への貢献をお約束するとともに、最新鋭のリサイクル設備とこれまでの実績や知識、技術を活かし、業界のトップリーダーとして一層の企業努力を重ね、地域社会の皆様方一人ひとりが、かつての高度経済成長、経済至上主義や核家族化の中に埋もれ、心の中から忘れ去られ風化しつつあった『道徳』『倫理』『相互扶助』などの周囲への気配りや優しさなどの精神を再び思い出し、美しい郷土とかけがえのない自然環境を次の世代に受け渡せる様に「コンプライアンスの強化」と「地球環境への配慮」、「ボランティア活動支援などの社会貢献」等を通して郷土と子供たちの未来のために邁進してまいります。

代表理事 石坂孝光



# 事業概要

## ● 名称

有価物回収協業組合 石坂グループ

## ● 所在地

本 社 工 場：熊本県熊本市戸島2874番地  
 大津事業所：熊本県菊池郡大津町杉水3746番地  
 西部事業所：熊本県熊本市上代7丁目28-11

## ● 代表理事

代表理事 石坂孝光

## ● 設立

設 立 昭和54年5月24日

## ● 出資金

出資金 7,000万円

## ● 事業内容

- 有価物（製鋼原料、製紙原料、各種非鉄、ガラスカレット、RPF、再生樹脂等）の回収・販売
- 一般廃棄物の収集運搬、リサイクル、処理
- 産業廃棄物の収集運搬、リサイクル、処理
- 廃棄物リサイクルに関するコンサルティング

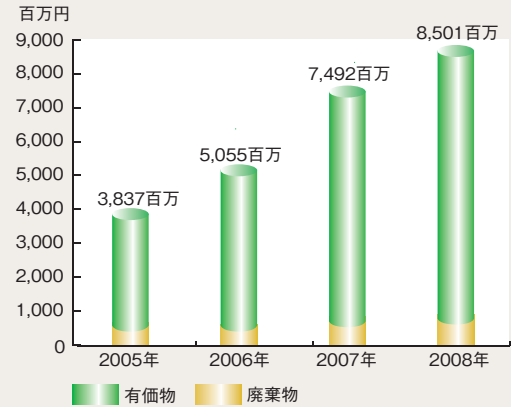
## ● グループ会社

(有)アイワ有価物処理企業 (有)石坂商店 (有)辻崎商店  
 (有)再生資源リサイクルセンター (有)石坂容器

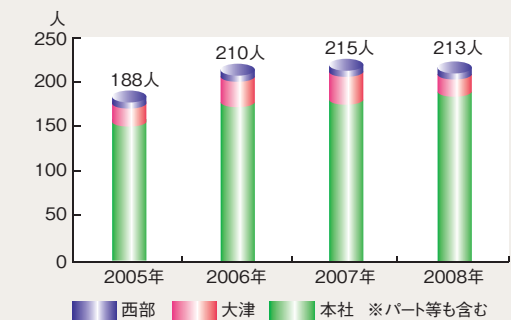
## ● 登録・許可

- 熊本県廃棄物再生事業者登録
- 熊本市リサイクル事業者認定
- 一般廃棄物処分業許可  
熊本市、大津町
- 産業廃棄物処分業許可  
熊本県、熊本市(優良性評価制度適合確認済)
- 一般廃棄物収集運搬業許可  
熊本市・合志市・菊池市・大津町・益城町・菊陽町
- 産業廃棄物収集運搬業許可  
熊本県・福岡県・佐賀県・大分県・鹿児島県・山口県・熊本市・福岡市・北九州市・大牟田市・久留米市・大分市・鹿児島市
- 自動車リサイクル法 ●引取業者登録 ●フロン類回収業者  
●登録解体業許可 ●破碎業許可
- 古物商許可
- 解体工事業登録
- 計量証明事業(質量)

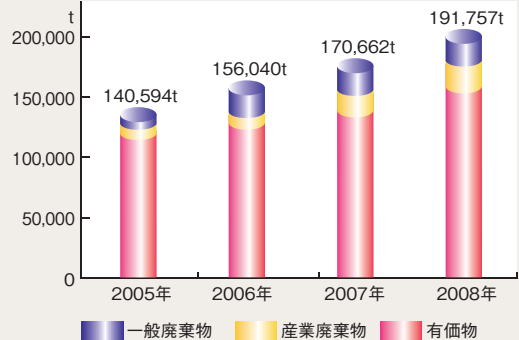
## ● グループ全体の売上げ



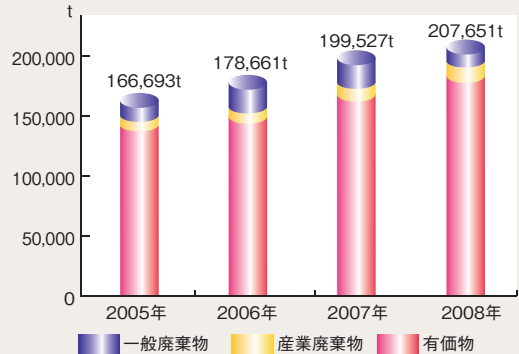
## ● グループ全体の従業員数



## ● 収集運搬量



## ● 中間処理量



## 石坂グループについて

(平成21年1月現在)

### 保有車両

- 15t車…………… 8台
- 10t車…………… 6台
- 8t車…………… 3台
- 5t車…………… 3台
- 4t車…………… 25台
- 3t車…………… 15台
- 2t車…………… 13台
- 軽トラック…………… 4台
- 高所作業車…………… 1台
- 合計…………… 78台

### 保有重機

- リフト…………… 26台
- ショベルローダー …… 14台
- パワーショベル…………… 12台
- スーパー…………… 3台
- 破碎機…………… 1台
- 合計…………… 56台



### 保有施設

- 金属リサイクル切断プラント
- PETフレーク破碎洗浄プラント
- 廃自動車等解体プラント
- びん・ガラス破碎プラント
- びん・缶選別プラント
- RPFプラント(2基)
- ペットボトル等選別プラント
- 機密古紙破碎プラント
- 廃蛍光管破碎プラント
- 金属シュレッダープラント
- 廃プラスチック類破碎・減溶プラント
- 大型選別・圧縮プラント
- 木くず破碎・選別プラント
- 選別・プレスプラント



### 情報公開

石坂グループホームページ(<http://www.ishizaka.gr.jp/>)  
 産廃情報ネット情報開示システム(<http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>)  
 にて情報を公開しています。

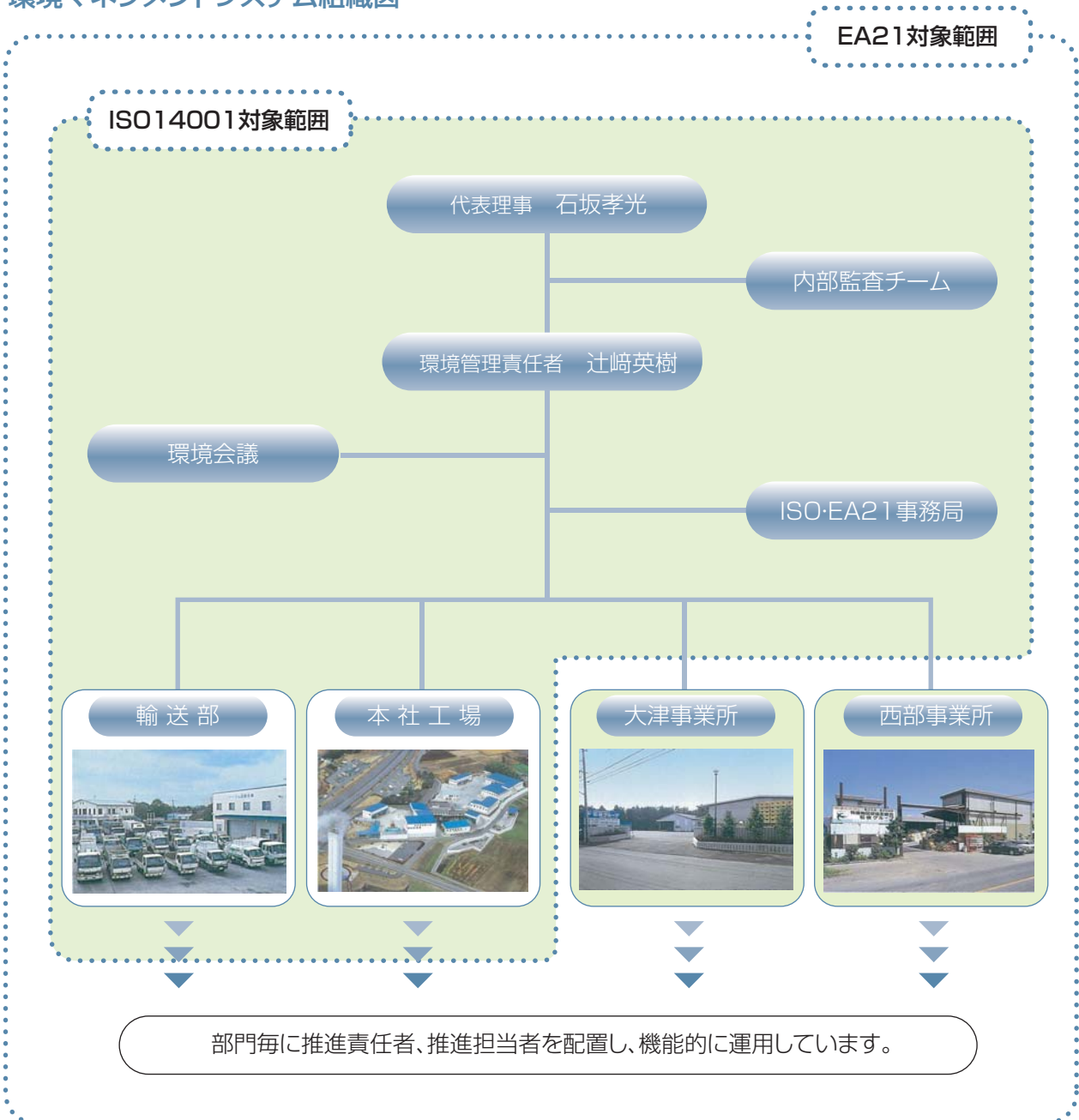
## 環境マネジメントシステム

石坂グループは、本社工場にて、2001年度にISO14001の認証を取得しました。

また、環境保全の一端を担う企業として、石坂グループ全体の環境負荷を把握し、更なる環境への取組や意識の向上をはかるため、2006年度から本社工場に大津事業所及び西部事業所を加えた石坂グループ全体でエコアクション21（EA21）の取り組みをスタートし、2007年度に認証を取得しました。

エコアクション21の取組体制は、本社工場ですでに構築しているISO14001の環境マネジメントシステムをベースにしています。

### 環境マネジメントシステム組織図



## グループ全体の物質収支

2008年度実績

エネルギー投入量

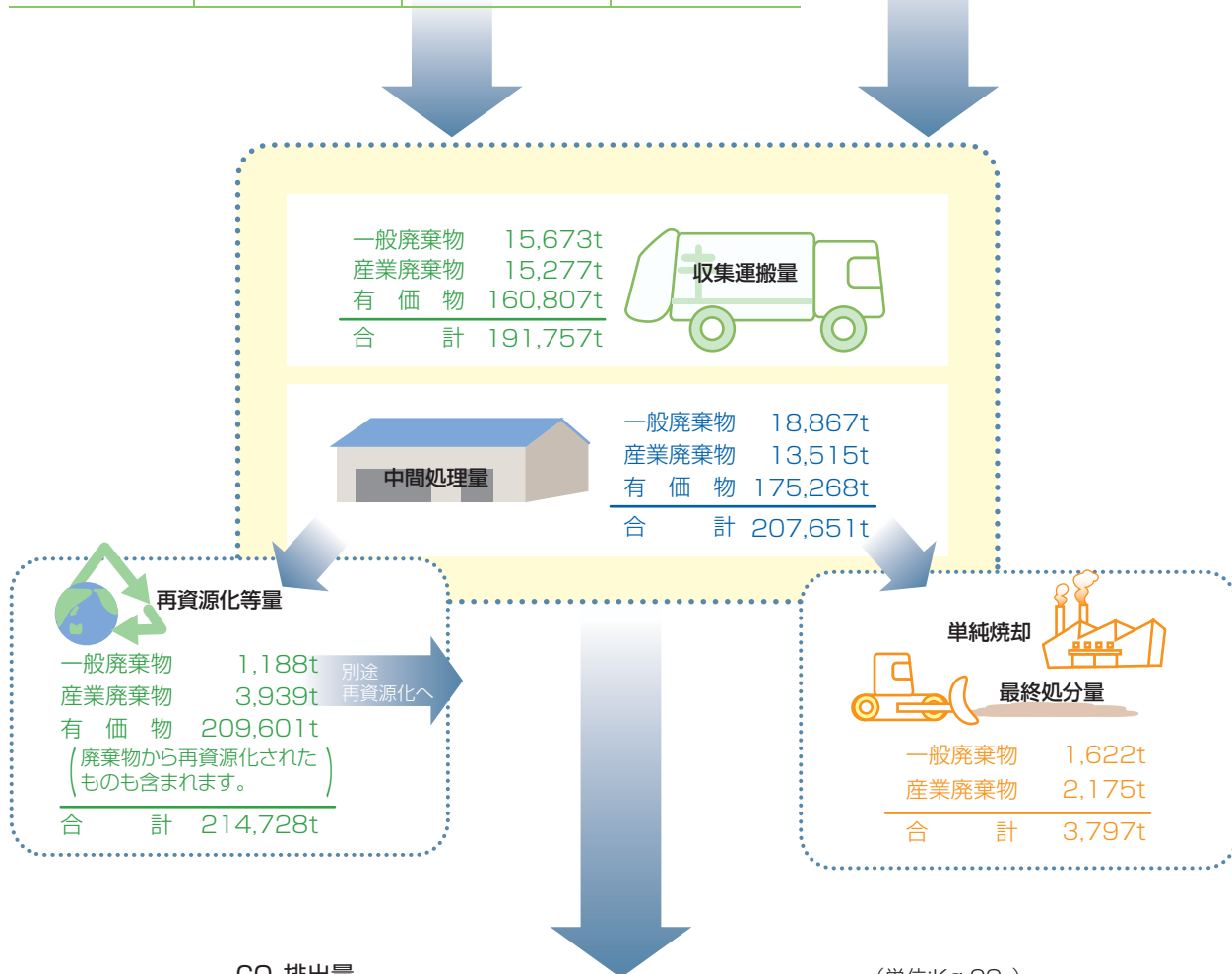
(単位: MJ)

	電気	化石燃料	合計
本社工場	20,875,971	10,024,457	30,900,428
大津事業所	3,639,322	1,922,843	5,562,164
西部事業所	818,348	923,928	1,742,276
車両	-	20,100,896	20,100,896
合計	25,333,640	32,972,124	58,305,764

水使用量

(単位: m<sup>3</sup>)

	水使用量
本社工場	7,794
大津事業所	754
西部事業所	299
合計	8,847



CO<sub>2</sub>排出量

(単位: Kg-CO<sub>2</sub>)

	電気	化石燃料	合計
本社工場	802,759	690,398	1,493,157
大津事業所	139,945	131,223	271,169
西部事業所	31,469	63,071	94,540
車両	-	1,379,262	1,379,262
合計	974,173	2,263,954	3,238,127

## 環境目標と実績

### 地球温暖化防止のために

工場及び車両による「二酸化炭素排出量」について、2008年度は、工場は環境目標を達成できませんでしたが、車両は環境目標を達成できました。

工場の環境目標が達成できなかったのは、基準年である2006年度に比べ、RPF(廃棄物固形燃料)プラントとPETフレーク破碎・洗浄プラントの稼働時間が増えたためです。しかし、その分は、RPFを提供している工場の二酸化炭素排出量が減り、PETフレークを提供している工場の化石燃料(PET原料)の使用料が減っていると考えられます。

また、下表の環境活動計画に示すような取組が進み、2007年度と比べると13.4%減となっています。

### 水資源保護のために

工場・車両の洗浄及び本社工場の処理工程の「水使用量」について、2008年度は、環境目標を達成できました。

### 循環型社会形成推進のために

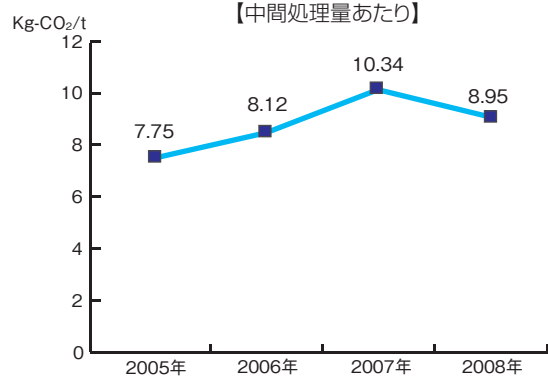
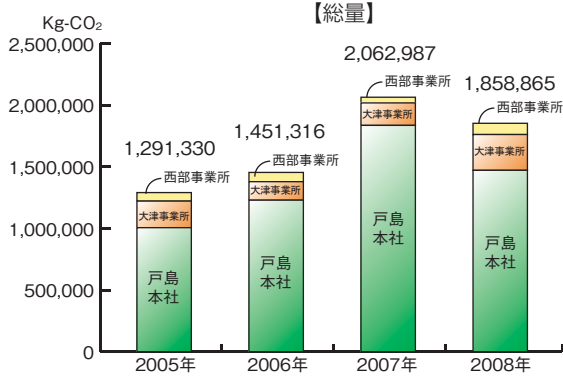
工場からの廃棄物等排出量の「リサイクル率」について、2008年度は、環境目標を達成できました。

### 地域・社会貢献のために

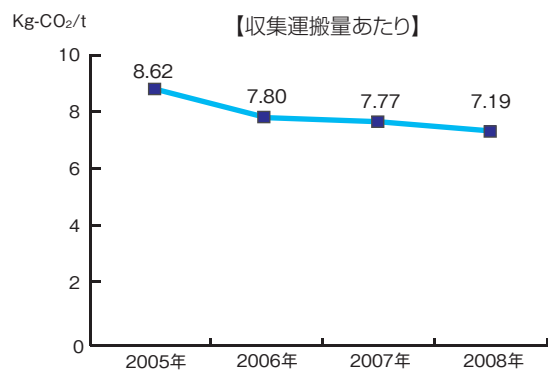
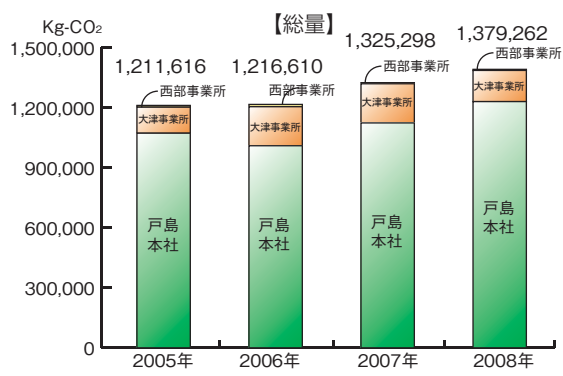
2009年度より、工場見学・体験学習者数についても環境目標を設定しました。2009年度の環境目標は、2006年度実績2,236人を基準として、4%増の2,325人とします。

項目	単位	2005年度実績	2008年度		主な環境行動計画		
			目標	実績			
二酸化炭素排出量	工場	総量	kg-CO <sub>2</sub>	1,291,330	—	1,858,865	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施。</li> <li>作業終了時の機械のブレーカーオフの実施</li> <li>自家発電設備の使用停止。</li> <li>アイドリングストップの実施。</li> <li>急発進、急加速の禁止及び法廷速度の厳守。</li> <li>省燃費運転講習会、メンテナンス向上研修会の実施。</li> </ul>
		中間処理量あたり	kg-CO <sub>2</sub> /t	7.75	7.36 (5%減)	8.95 目標非達成	
	車両	総量	kg-CO <sub>2</sub>	1,211,616	—	1,379,262	
		収集運搬量あたり	kg-CO <sub>2</sub> /t	8.62	8.19 (5%減)	7.19 目標達成	
水使用量	総量	m <sup>3</sup>	7,509	—	8,847	<ul style="list-style-type: none"> <li>場内配管等の漏水の有無の確認と補修。</li> <li>洗車時の雨水使用の促進と使用時間の短縮。</li> <li>節水強化月間の実施。</li> </ul>	
	中間処理量あたり	m <sup>3</sup> /t	0.0450	0.0450 (現状維持)	0.0426 目標達成		
廃棄物等排出量	再資源化等量	t	166,185	—	214,728	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正処理の推進による、リピーター・固定客の確保。</li> <li>排出先への廃棄物のリサイクル化への啓蒙啓発活動。</li> <li>廃棄物の分別及びリサイクル研修会の実施。</li> </ul>	
	単純焼却最終処分量	t	3,260	—	3,797		
	リサイクル率	%	98.1	98.1 (現状維持)	98.3 目標達成		

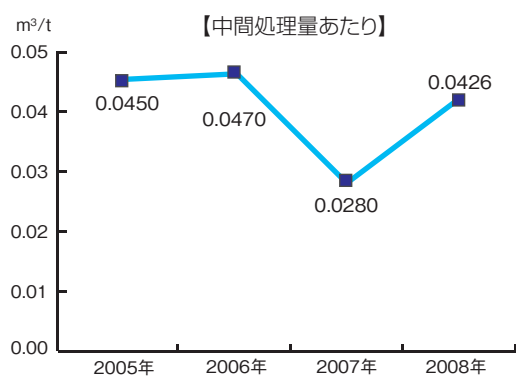
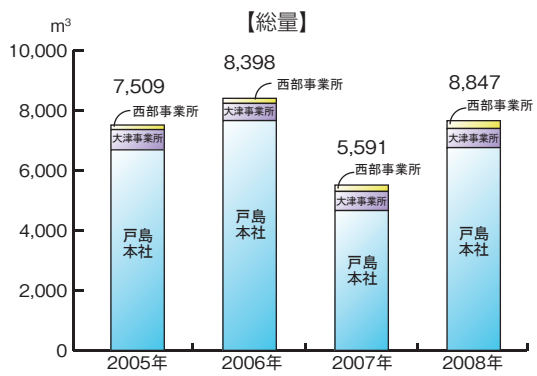
●CO2排出量(工場)



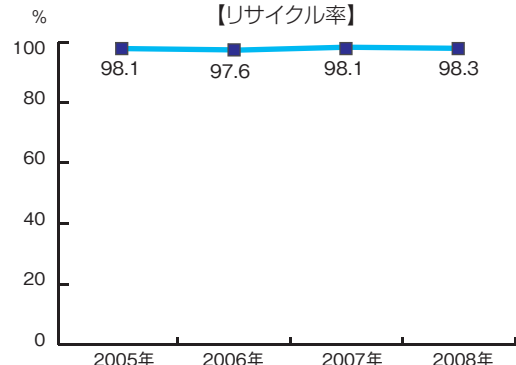
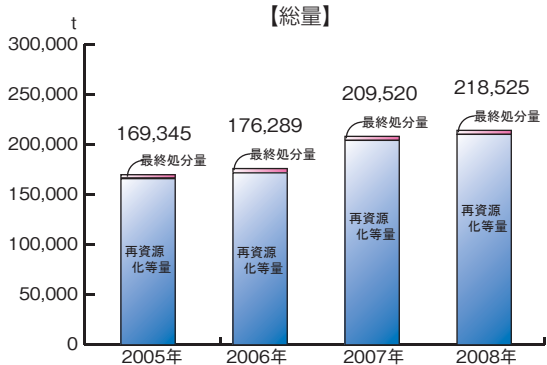
●CO2排出量(車両)



●水使用量



●リサイクル率



## 環境関連法規等の遵守状況

2008年度は、当社グループによる環境関連法規違反、環境に重大な影響を与える事故、訴訟等はありませんでした。

## 地域・社会貢献

### 工場見学・体験学習

地元地域、社会貢献活動として、工場見学や体験学習を積極的に受入れています。平成20年度は見学者2,247名、体験学習者424名を受け入れました。



### 感謝祭

第2回石坂グループ感謝祭を実施し、地元地域の皆様はもとより、顧客や関係者のご家族を含めた2,632名の皆様にご来場頂き、交流の場をもうけました。



## 社員教育・訓練

### 環境に関する教育

#### 一般教育 (管理者研修)

- ・環境方針及び手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性
- ・作業活動による顕在又は潜在の著しい環境影響及び各人の作業改善による環境上の利点
- ・環境方針及び手順との適合、並びに緊急事態への準備及び対応の要求事項を含む環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任
- ・規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果

#### 力量教育 (従業員研修)

著しい環境側面に関する業務を適切に実施運用するための技能

##### 部門専任者訓練

- ・規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果

##### 内部監査員研修

- ・環境マネジメントシステム監査に必要な知識・技術の習得

##### 専門技術者講習

- ・業務上取得が必要な技能講習、免許、資格



#### ◆ 本レポートについて ◆

- 2009年8月発行 第3版
- 対象取組期間／2007年12月～2008年11月
- 編集担当者／EA21事務局 草野哲示、益永葉留奈

<http://www.ishizaka.gr.jp/>



21世紀のリサイクルシステムをサポートする  
有価物回収協業組合  
石坂グループ

本 社 工 場：熊本県熊本市戸島町 2874 番地 TEL. 096 (389) 5501  
大津事業所：熊本県菊池郡大津町杉水 3746 番地 TEL. 096 (293) 0561  
西部事業所：熊本県熊本市上代町 7 丁目 28-11 TEL. 096 (329) 2002